



無所属
区議員
板橋

しいなひろみ 楽しいな通信

ご報告枚数
1,608,620枚
前号までにお届けした
枚数です

親子
4代地元

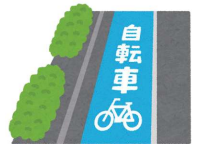
こんにちは、板橋区議会議員のしいなひろみです。日頃より「楽しいな通信」をお読みいただき、心よりありがとうございます。暑さが厳しくなる季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。令和8年6月定例会では、イオン板橋SC前交差点の安全対策と音響式信号機の設置、補助犬ユーザーの住まい・移動支援、家事支援国家資格化への対応、介護現場を地域で支える仕組みなどについて質問いたしました。現場の声にこそ、暮らしを良くするヒントがあります。これからも区民の皆さまの声を区政へ届け、誰もが安心して暮らせる板橋をめざして取り組んでまいります。ご意見・ご要望がございましたら、どうぞお気軽にお聞かせください。

令和8年第2回定例会 一般質問概要(令和8年6月5日)

1 イオン板橋SC前交差点の安全対策について

しいな質問要旨

東武練馬駅前のイオン板橋ショッピングセンター前交差点は、ときわ通りと徳丸通りが交差し、歩行者・自転車・自動車が集中する大変交通量の多い場所です。特に上板橋方面の車線では、路線バスやタクシーの停車もあり、自転車が車道を走行する際に危険な場面が見られます。一方で、歩道上でも自転車と歩行者が交錯し、接触事故やヒヤリハットが日常的に発生しています。区として現状をどう認識し、自転車走行空間の整備、注意喚起、警察との連携、歩行者保護など、どのような安全対策を進めるのかを質問しました。



坂本区長答弁要旨

区は、同交差点周辺について、駅前で多くの歩行者・自転車・自動車が錯綜し、さらに急な坂道もあることから、安全な通行に課題がある箇所と認識していると答弁しました。現在は、注意喚起のためのターポリン幕を設置するとともに、警察署とも連携し、自転車をはじめとした交通安全啓発を行っています。自転車通行空間については、優先整備路線ではないため、現時点で整備予定はないものの、今後も関係機関と連携しながら交通安全対策を進めていくとしました。

2 音響式信号機の早期設置について

しいな質問要旨

イオン板橋SC前交差点のときわ通り側横断歩道は、上板橋方面に向かって路面が傾斜しており、車椅子利用者やベビーカー利用者はハンドルを取られやすく、高齢者も足元を確認しながら慎重に渡らなければならない状況です。音響式信号機は、視覚障がい者のための設備という印象がありますが、実際には高齢者、車椅子利用者、ベビーカー利用者など、多くの方にとって安全な横断を支える重要な設備です。誰もが安心して道路を横断できる環境整備のため、警視庁に対し、音響式信号機の早期設置を強く要望するよう求めました。



坂本区長答弁要旨

区は、信号機の設置については警察署の所管であるとした上で、当該交差点への音響式信号機設置の要望については、既に所管警察署へ伝えてしていると答弁しました。警察署からは、要望者との現地立会いを行い、実際の利用経路や安全上の必要性などを確認した上で、設置の可否を検討すると聞いているとのこと。区としても、今回の一般質問で改めて要望があったことを警察署へ伝えると答えました。

3 補助犬ユーザーの住まい確保について

しいな質問要旨

盲導犬・聴導犬などの補助犬は、利用者にとって単なるペットではなく、日常生活と社会参加を支える大切なパートナーです。しかし、民間賃貸住宅では「ペット可」であっても小型犬を想定した物件が多く、補助犬の多くを占める大型犬は入居を断られる事例があります。また、視覚障がいのある方にとって、住まいの変更は、通い慣れた道、駅、スーパー、病院など生活環境を一から覚え直す大きな負担となります。補助犬ユーザーが安心して地域で暮らし続けられるよう、区として住宅確保の課題をどう捉え、どのような支援が可能かを質問しました。



坂本区長答弁要旨

区は、補助犬ユーザーの入居が難しくなる背景には、大家等が補助犬をペットと混同し、受け入れを拒むケースがあることを課題として認識していると答弁しました。そのため、補助犬に対する正しい理解が広がるよう、大家等への働きかけが重要であるとしました。また、障がい者など住宅確保に配慮を要する方への相談窓口として「板橋りんりん住まいるネット」を設置しており、今年度からは民間事業者への委託により、より充実した相談支援や情報提供を進めていくと答えました。

4 猛暑・悪天候時の盲導犬の安全確保について

しいな質問要旨

近年の猛暑では、夏場のアスファルトが非常に高温となり、短時間の移動でも盲導犬の足裏がやけどを負う危険があります。靴型の保護カバーを使用する場合がありますが、視覚障がいのあるユーザーは、移動中にカバーが外れても気づきにくい場合があります。また、雨天時にはレインコートを着用していても盲導犬自身の体力消耗が大きく、体調管理に細心の注意が必要です。障がいのある方の移動支援だけでなく、その社会参加を支える補助犬の健康と安全にも配慮した支援が必要ではないかと質問しました。

坂本区長答弁要旨

区は、身体障がい者の社会参加にとって補助犬は欠かせない存在であり、猛暑時には利用者が涼しい時間帯に移動したり、必要に応じてタクシーを利用したりするなど、熱中症予防ややけど防止のために工夫を重ねていると認識していると答弁しました。補助犬ユーザーへの移動支援については、障害者総合支援法に基づく同行援護や移動支援、福祉タクシー券などを実施していると説明。一方で、福祉タクシー券の追加交付については、現時点では予定していないとしました。

